

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>校訓「つくろう あすへの わ」(和・・・心と体の調和、輪・・・仲間とのつながり、我・・・自分らしさ、の三つの「わ」)を大切にしながら、「未来をいきる主人公を育てる」ことを学校教育目標とする。</p> <p>多様に変化する社会に対応し、自分の可能性を最大限に発揮できる児童生徒を育てるとともに、知的障がいのある児童生徒のための支援教育を発信する。</p> <p>1 「一人ひとりの心と体を大切にし、将来に向けたステップを作る力をはぐくむ学校」</p> <p>2 「関係機関と連携し、地域のなかで役割を担う学校」</p> <p>3 「自ら前向きに変わっていかうとする力を持つ学校」</p>

2 中期的目標

<p>1 児童生徒・教職員一人ひとりの心と体を大切にする学校づくり</p> <p>(1) 危機管理体制の充実(防犯・防災教育の計画的な指導、保護者・地域との連携)</p> <p>(2) 児童生徒の健康維持・管理(学校保健の充実)</p> <p>(3) 児童生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力しあえる関係の構築(人権研修年間3回・伝達研修の充実、個人情報の適正管理)</p> <p>(4) 教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化が図れる学校運営(働き方改革)</p> <p>2 児童生徒の将来に向けた力をはぐくむ学校づくり</p> <p>(1) 教育課程・シラバスの充実、個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用による指導支援の充実</p> <p>(2) 児童生徒の主体的な意欲を引き出す授業力の向上(全校公開授業年2回・研究協議の充実)</p> <p>(3) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた自立活動の充実。ココカラ学習の充実。多職種連携による指導支援の充実</p> <p>(4) キャリア教育を全校一貫として実施</p> <p>(5) 情報活用能力の育成</p> <p>(6) 一人ひとりに応じたよりよい進路の実現</p> <p>3 関係機関と連携し、地域の中で役割を担う学校づくり</p> <p>(1) 学校情報発信力の向上</p> <p>(2) 地域における支援教育のリーダーとしての活動の充実</p> <p>(3) 地域リソースを活用した教育活動による、児童生徒の社会参加・社会貢献意識の向上</p> <p>(4) 居住地校交流・学校間交流の充実</p> <p>4 自ら前向きに変わっていかうとする力を持つ学校づくり</p> <p>(1) ICT 機器の効果的な活用</p> <p>(2) 学校運営を推進していけるミドルリーダーの育成</p> <p>(3) 経験年数が少ない教員の指導力の育成、中堅層・ベテラン層のマネージメント力の向上(校内研修、外部研修)</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

府立西浦支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	分掌進捗状況
1 児童生徒・教職員一人ひとりの心と体を大切にする学校づくり	(1) 危機管理体制の充実	(1) 防犯・防災教育を系統的に整理し、組織的な学校安全体制を整備する。保護者と連携した実践的な訓練の実施	(1) 学校安全に係る委員会を立ちあげ、防犯及び防災計画、BCP の改訂を行う。	(1) 学校安全委員会を新設。月 1 回実施。大阪府内外の学校視察を実施。防犯防災訓練は保健安全部と連携し、年間 13 回計画、7 回実施済。マチコミメールを活用した安否確認を実施。新たに災害用伝言版の活用についても保護者に通知。
	(2) 児童生徒の健康維持・管理	(2) 児童生徒が自ら心身の健康管理に取り組めるために、「学校保健計画」に基づき健康教育に取り組む。	(2) 学校における怪我を 50%削減する〔R 5 年度基準 394 件〕	(2) 学校での怪我保健室来室数 4 月～7 月は 122 件。時期や状況の分析を教員に伝達予定。全校集会で怪我防止のためのルール確認及び児童生徒会と共に怪我予防体操（西浦オリジナル）を新たに創作し実施中。
	(3) 児童生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力しあえる関係の構築	(3) ア. 教員の人権意識向上のため、グループワークを含めた悉皆研修を実施。人権委員会を開催し、引き続きいじめの未然防止に努める。 イ. 個人情報の適正な管理に努め、個人情報の流出を防止する。	(3) ア. 人権研修 3 回実施 自己診断（教員）「人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」93%以上〔92%〕 イ. 個人情報流出 0 件	(3) ア. 人権研修 3 回実施済。①エンゲージメントカードを用いたグループワーク ②SST 研修③大教大池田事件について、命の大切さの研修。これに加え新たに府の人権研修（4 コース）の伝達研修を集合型で実施。 イ. 個人情報の大切さ、漏洩した時の児童生徒への影響など、職員会議や便りなどで校長・准校長より周知。
	(4) 教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化が図れる学校運営	(4) ア. 時間外勤務を減らす取組みを実施。会議や打ち合わせの効率化、データベース化を進める。 イ. 教職員の遅刻欠席連絡方法を電話からフォーム作成ツールへ変更し、教頭業務の軽減を行う。	(4) ア. 時間外労働の削減 30 時間超え 0 人〔5 人〕（1 月現在） 45 時間超え 100 人〔137 人〕（1 月現在） イ. 8：00-8：20、20 分間の教頭電話対応業務時間を 0 分間とする。	(4) ア. 時間外労働時間 80 時間超え 8 人〔5 人〕 9 月末時 45 時間超え 104 人〔93 人〕 9 月末時 イ. 連絡方法を Google フォームに移行。朝の電話対応件数 657 回の削減（5-9 月実績）。
2 児童生徒の将来に向けた力をはぐくむ学校づくり	(1) 教育課程・シラバスの充実、個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用による指導支援の充実	(1) 授業力、自立活動の指導力の向上等と連動し、各計画の作成及び活用実践力の向上をめざす。	(1) 自己診断（教員）「マニュアルに基づき、作成、評価も含めて適正に運用されている」 個別の教育支援計画 90%〔85%〕 個別の指導計画 90%〔84%〕	(1) 連絡スライド等で定期的にマニュアルの活用や、作成評価時の留意点について周知を行い活用中。（夏季休業前後は済、冬季休業前後予定）
	(2) 児童生徒の主体的な意欲を引き出す授業力の向上	(2) ア. 公開授業及び研究協議の充実、学部を越えた授業見学・意見交換等による授業力の向上をめざす。 イ. 外部研修の成果の伝達・共有方法の充実 ウ. 研修年間計画を見える化し、課題やニーズに応じた研修を実施	(2) ア. 公開授業及び研究授業を年 2 回継続実施 自己診断（教員）「シラバス、指導案、授業記録を蓄積し、常に授業改善に取り組んでいる」85%〔72%〕 イ. 自己診断（教員）「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている」78%〔69%〕 ウ. 自己診断（教員）「校内研修組織が確立し、研修が計画的に実施されている」90%〔77%〕	(2) ア. 全校一斉公開授業 1 回実施（7/8） 研究授業日程表を職員会議にて共有済（9 月開始 初任 7、その他 8） イ. 府教育庁実施の人権研修 B～E の伝達研修を 9/26 実施済、11/28 実施予定。A は 11/16 新転任人権研修にて伝達予定。参加教員が講師を務める。 ウ. 4 月職員会議で研究支援部より年間計画を周知。12 か月間でいつ、どのような研修を行うかを見える化している。
	(3) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた自立活動の充実。ココカラ学習の充実。多職種連携による指導支援の充実	(3) ア. 支援チームと連携した教員が相談しやすい環境を整え、指導内容や指導方法・教科学習の充実を図る。 イ. ココカラ学習を教科横断的に実施 多職種連携によるココカラ学習の充実	(3) ア. 自己診断（教員）「自立活動の指導に当たり、児童生徒が興味を持って主体的に取り組めるよう工夫している」85%〔84%〕 イ. ココカラウィーク年 3 回実施を継続 保護者向け学習会の開催 年 2 回〔1 回〕	(3) ア. 学期ごとに相談アンケートを全教職員へメールで周知。OT、PT 相談による指導支援の充実 OT 6 件、PT 5 件。夏季休業中に自立活動教材展示 3 日間実施。 イ. ココカラウィーク 1 学期実施済。保護者向け学習会は、小学部は 9/26 実施済。中学部高等部は 12 月開催予定で外部講師との調整中。
	(4) キャリア教育を全校一貫として実施	(4) キャリアプランニングマトリクスを基にキャリア教育を意識した授業の実施 ぶどう栽培を軸にした小中高の系統立て	(4) 自己診断（教員）「小中高一貫性のあるキャリア教育を行っている」75%〔60%〕	(4) 小・中学部児童生徒がぶどう栽培に関わる環境を整えることができた。系統的なキャリア教育を継続して実施する

府立西浦支援学校

	<p>(5) 情報活用能力の育成</p> <p>(6) 一人ひとりに応じたよりよい進路の実現</p>	<p>た取り組みを実践し、保護者への周知を図る。</p> <p>(5) 情報モラルの視点を取り入れた授業を各教科において実施、成果を検証し課題に基づいた指導を実施する。 保護者への啓発</p> <p>(6) 多様な進路先について情報提供を行い、希望する進学先への進路実現をめざす。</p>	<p>(5) 児童生徒・保護者向け情報モラルチェックシートを引き続き実施 年2回〔2回〕 授業でも取り組み、児童生徒の意識を保護者と共有 年2回〔0回〕</p> <p>(6) 自己診断（保護者）「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」小中：85%〔67%〕</p>	<p>ため、教育課程に組み込むことを検討中。</p> <p>(5) 情報モラルの視点を取り入れた各教科の授業例を6月職員会議にて紹介し実施を促す。7月に保護者向け情報モラルチェックシートを配付・回収し、回答を共有。前期末懇談会にて担任と保護者で話題に挙げる予定。</p> <p>(6) 6/25 中3対象の進路説明会を実施。高等支援学校等のオープンスクール案内をその都度周知。2学期に小中学部保護者対象の進路説明会を実施予定。</p>
3 関係機関と連携し、地域の中で役割を担う学校づくり	<p>(1) 学校情報発信力の向上</p> <p>(2) 地域における支援教育のリーダーとしての活動の充実</p> <p>(3) 地域リソースを活用した教育活動による、児童生徒の社会参加・社会貢献意識の向上</p> <p>(4) 居住地校交流・学校間交流の充実</p>	<p>(1) ホームページ、学習支援連絡網等を活用した情報発信。閲覧回数を増やすため、配付プリントへの QR コードの記載を継続</p> <p>(2) 地域の小中学校等への訪問又は来校相談等を実施</p> <p>(3) 学校周辺の施設を積極的に活用した教育活動の実施</p> <p>(4) 学校間交流及び希望者の居住地校交流を実施。互いに理解を深め、尊重し協力する力を育成する。</p>	<p>(1) 自己診断（保護者）「HP等の活用も含め、学校の様子を伝える努力をしている」90%〔88%〕</p> <p>(2) 地域の学校園への訪問又は来校相談等を100回実施〔87回〕(12/24現在)</p> <p>(3) 近隣大学や施設等と連携した教育活動を各学部2回以上実施〔2回〕 自己診断（保護者）「子どもが社会の一員であることや役割を意識できる教育活動を行っている」小中：80%〔76%〕</p> <p>(4) 各学部3回以上の学校間交流を実施〔小4回、中5回〕 全希望者の居住地校交流を実施〔小6人、中1人〕 自己診断（保護者）「子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」小中：68%〔65%〕</p>	<p>(1) ホームページやマチコミを使い、デジタルにて情報発信を継続中。閲覧できない家庭には書面配布。ブログの掲載件数数 252 (10 月末現在)</p> <p>(2) 地域の学校園への訪問・来校相談等 25回実施 (8/1 現在)</p> <p>(3) 小中学部6月四天王寺大学2回生との授業交流実施済。中2近隣商業施設での総合学習実施に向け打ち合わせ中。中3進路学習として近隣飲食施設を見学予定。中学部「作業」授業でクリーニング前期1回実施済、「どうみょうじ高殿苑」にてクリーニング実習を予定。</p> <p>(4) 交流実施に向け対象小中学校と調整中 《学校間交流、調整校》 ・西浦小学校 ・峰塚中学校 ・高鷲南中学校 《居住地校交流》 全希望者の居住地校交流の日程等の調整中。希望者は小学部10人、中学部4人。</p>
4 自ら前向きに変わっていくとする力を持つ学校づくり	<p>(1) ICT 機器の効果的な活用</p> <p>(2) 経験年数が少ない教員の指導力の育成、中堅層・ベテラン層のマネジメント力の向上</p>	<p>(1) 実践先進校に教員を派遣し、活用事例等を収集。継続して ICT 機器の使用に関する校内研修を実施</p> <p>(2) ア. 研究授業の参観及びメンター会議や初任者の振り返り会の充実 他学部交流研修の実施</p> <p>イ. 職層に応じた人材育成</p>	<p>(1) 自己診断（教員）「ICT 機器を効果的に活用している」85%〔72%〕</p> <p>(2) ア. 自己診断（教員）「メンター制など人材育成に関する校内支援体制ができている」83%〔68%〕</p> <p>イ. 自己診断（教員）「教職員の適性・能力に応じた校内人事が行われ、よく機能している」60%〔47%〕</p>	<p>(1) 情報教育部より、全教員を対象に ICT 活用講習会を行った（4講座）。ICT 活用に役立つテクニック等の情報を情教育部から数回校務 DX を活用し発信。生成 AI の業務活用方法についての講習会を開催。運営メンバー受講。全職員へ伝達講習を実施済。</p> <p>(2) ア. メンターやチューター、初任者との連携を見直し、振り返り会の進行方法を変更。それぞれに役割を設定し、ホワイトボードを活用し可視化。ミーティング形式とすることで、可視化したものを情報共有しやすくなった。役割に応じたスキルを習得できるよう1学期に実施済。</p> <p>イ. 府の S S T 研修に15人出席。5年目教員が府立人権研修受講後、プレゼンスライドにまとめ、伝達講習の講師として全体へ説明。</p>